



大森 正治 議員

竹口町政 4 年目の行政は

町長

ボトムアップと トップダウン両方で



業務に専念する職員

【大森】2020年度は、竹口町政1期目のまとめの年になる。子育て支援策などの効果で、2018年度の人口動態が転入増となった。これを持続性あるものにする施策は。

【町長】人口の社会増に近道や特効薬はない。「誰もが住んで良かったと感じられるまち」をめざし、長年積み重ねてきた施策をさらに積み重ねていく。

【大森】自ら手がけた役場の機構改革をどう評価しているか。

【町長】100点満点

とは思わないが一長一短がある。不都合な点は変更しつつ、機能的な行政に努める。

【大森】職員との意思疎通や政策提言をどのようにしているか。

【町長】「オフィスアワー」を作って、職員からの電話・来訪を可能としている。職員提案制度で政策提言や課題の提起を受け付けており、政策に結びついたものも多い。ボトムアップとトップダウン、両方合わせよう。

教員の多忙化解消の 具体化を

教育長

人員の拡充を求める

【大森】昨年12月、公立学校の教員に「1年単位の變形労働時間制」の導入を可能にする法律が制定された。これは逆に長時間労働を強いることになり、導入すべきでないと考えざるを得ないか。

【教育長】長時間労働をしている学校にはメリットは少ない。現状の長時間勤務を容認、助長しかねない。

また、今後はどうか。

【教育長】学習支援員、学校主事、図書館司書の配置や部活動に休養日の設定をした。今後は、教員業務アシスタントの拡充や加配教員を要求したい。

【大森】教員の業務削減が必要だ。多すぎる学力テストの精選をしないか。

【教育長】学校現場の状況を検証して、テストの精選につなげたい。

県の条例が作られても、すぐに導入するのではなく、まずは学校での業務改善の推進が大切である。

【大森】教員の多忙化解消のためにどんなことを具体化してきたか。

教員の變形労働時間制とは
教職員の働き方改革として、繁忙期に一日の勤務時間を長くし、その分を閑散期の夏休みなどに調整する制度。

